

Prevalence and prognostic implications of malnutrition as defined by GLIM criteria in elderly patients with heart failure

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2022-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 廣瀬, 丞 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002860

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2573 号

Prevalence and prognostic implications of malnutrition as defined by GLIM criteria in elderly patients with heart failure

高齢心不全患者における GLIM 基準により定義された低栄養の有病率と予後への影響

廣瀬 丞 (ひろせ すすむ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

低栄養に関するグローバル・リーダーシップ・イニシアティブ (GLIM) は、世界的に臨床で成人の低栄養を診断するためのコンセンサスとして GLIM 基準を提案したが、高齢心不全患者における GLIM 基準に基づく低栄養の有病率およびその予後との関係は未だ不明である。本研究は、高齢心不全患者において GLIM 基準によって定義された低栄養の有病率と予後との関係を評価し、低栄養の既存の定義である高齢者栄養リスク指数 (GNRI) と比較することを目的とした。

退院時に歩行可能な 65 歳以上の非代償性心不全の入院患者 890 名において、GLIM 基準と GNRI の 2 つの指標により低栄養を評価した。主要評価項目は退院後 1 年以内の全死亡とした。

GLIM 基準に基づき定義された低栄養は高齢心不全患者においてその 42.4%に認められ、既知の予後因子から独立して不良な予後と関連していた。GLIM 基準および GNRI<92 で定義された低栄養は、被験者のそれぞれ 42.4%および 46.5%で認められ、これら 2 つの定義による低栄養の診断は中等度の一致を示した (Cohen's kappa coefficient:0.46 [95%CI:0.40~0.51])。1 年間の追跡中に 101 例 (11.4%) の死亡が観察され、GLIM 基準そして GNRI のいずれの定義においても低栄養は他の予後因子から独立して高い死亡率と関連していた (GNRI:ハザード比, 1.45, P=0.031;GLIM 基準:ハザード比, 1.57, P=0.016)。GLIM 基準または GNRI で定義された低栄養を既存の予後因子により構築された予後予測モデルに追加すると、どちらの定義においても付加的な予後予測能を示したが、GNRI の代わりに GLIM 基準に基づく低栄養を予後予測モデルに追加する事でモデルの予後予測能の統計学的に有意な改善が得られた (net-reclassification Improvement , 0.44, P<0.001;

integrated discrimination improvement, 0.013, P<0.001)。GLIM 基準に基づき定義された低栄養は高齢心不全患者においてその 42.4%に認められ、既知の予後因子から独立して不良な予後と関連していた。